



# 『We 鏡中』

令和8年 5月 1日

## ☆≡ 「脱いだ上靴をそろえる」

4/14のはなまる連絡で、聴力検査時のきれいに並んだ上靴を見て、「全ての生徒がこのように脱いだ靴をきちんと並べることが出来るようになれば…」 「全ての生徒が言われなくても、これができるように…」 と思いを新たにしてお伝えしました。



昨日(4/30)の1年生心臓検診でも、写真のようにきれいに上靴が並べてありました。こんなことぐらいでと思うかもしれませんが、次のことを考えて行動するための基本なので、いろいろな人から最初に評価される部分でもあります。それができていたことに感心しました。

はきものをそろえることについて、私が感銘を受けた詩があります。それは次の詩です。

「はきものをそろえる」 藤本幸那(長野県円福寺住職)

はきものをそろえると 心もそろう 心がそろうと はきものもそろう  
ぬぐとときに そろえておくと はくときに 心がみだれない  
だれかが みだしておいたら だまってそろえて おいてあげよう  
そうすればきっと 世界中の人たちの心も そろうでしょう

第二次世界大戦で、東京中が焼け野原になり、親を亡くした子どもたちが、裸足で、物乞いやスリ、置き引きなどをして暮らしているのを見て、藤本住職は自分のお寺でその子らを育て始められ、子どもたち数十人になった頃に、玄関に脱ぎ捨てられた靴が重なったり、ばらばらになったりした靴を見て「履き物をほったらかしておくと、また戦争になってしまいますぞ。」と藤本住職が子どもたちに伝えることがきっかけで、この詩が生まれたとされています。

自分の靴を揃えず脱ぎっぱなしにするという行動は、後から来る人のことをまったく考えていません。その場のことしか考えていないことの現れです。自分さえよければという心の現れと言われます。反対に、靴を揃えることができる人は、自分の行動を冷静に考えられる状態にあると考えられます。さらに、自分の物だけでなく、他の人が乱した履物を黙って揃えることが出来る、思いやりの心を持つ人になる可能性を秘めていると思います。(私自身もそうなれるように努力しなければ…) 「自分ひとりがやっても変わらない」という言葉を聞きますが、自分がやらなければ何もかわりません。他人を変えることは難しくても、自分を変えることは、自分にできることですし、自分を変えることが出来るのは自分だけです。変わることが出来るかどうかは、自分自身の選択です。

「日本サッカーの父」と称されるデットマール・クラマー氏(1925-2015)が残した言葉に、『サッカーはトイレのサンダルと同じ』という有名な言葉があります。技術だけでなく「人間としての心得」を日本サッカーに植え付けたと言われるクラマー氏は、この言葉を次のように説いたとされています。偉大な先人が同じようなことを言われていることに私は重みを感じます。

「サッカーはトイレのサンダルと同じだよ。トイレで用を済ました後、サンダルをそろえておかないと、次に使用する人はどうなる？」

サッカーは思いやりだよ。パスを受ける人の立場になって受けやすいボールを出すことから始まるんだよ。

これから何十年も続く君たちの人生も一緒だよ。人を思いやる気持ちを大事にしよう